

將來の美術界に對する希望

黒田清輝君談

お尋ねに依つて意見を述べますが、元來美術界などには、特に戦後經營と言ふ程のことはあるまいと思ひます。美術界の戦後經營などは、ちよつと可笑しいやうです。陸海軍とか或は財政の方などは、戦後の經營をすべきことが澤山有りませうが美術の方では、特に斯様に言ふ必要もありませんまい。何故ならば、美術界などは、殊に日本美術界は、戦前戦後の差別なく、常に將來の事を計畫しなければならぬので、苟しくも藝術家たる人、また此の方面に嗜好を有して居らるゝ人々は不斷此の事に注意せなければなりません。然らば美術界は今の儘でいゝか、戦後の經營と見做すべき事は、絶對的に無いかと言ふにそうではない、つまり戦争の終局と共に、明治史に一段落が出来たのですから、之れを機會として、將來の美術發達の計畫を立てるといふ事は固より願ふ所であります。何も特に戦後だからと言ふのではない、實は今迄に大分手後れに爲つて居るのですから此の戦争の終局、平和の克復と言ふ今日の時期は、その計畫を立てて且つ實行するのに、最も好い機會でありますから、之れを失はず、大に發展の道を講じたいと言ふのであります。

斯様の考で私はお話するのです。御承知の通り洋畫を専門として居る私ですから、洋畫の方面にのみ就いて意見を述べべき筈であり、また人々も左様に望まれるでせうが、今は美術界の將來の爲めに廣い問題に就て考へる必要があると存じますから、特に洋畫のみでなく、一と通りお話致します。

今の問題と言ふのは、如何にせば日本の美術は發達するであらうか、又既に發達して居る美術を、更に一層發達させるには如何様の方法を講ずべきか、と言ふことに歸着します。完成の域に達して居らぬものを進め、又既に完成の境に在るものを退歩させぬやうにするには、如何なる方法を用ゐねばならぬか、之れが目下急を要する問題であります。

さて今の美術界全體、即ち油繪の方も、日本畫の方も、何もかも引くるめた美術界の有様は如何でせうか。私の見た所では餘程衰弱して居るやうです。殊に日本畫は甚だしい。また西洋風の繪、即ち洋畫はどうだと云へば、これがまた非常に低い階段にあるのです。尤も洋畫は最近十年間には幾分か進歩したには違ない。併し非常に遅緩たる進行で、若し此の儘に任せて置いたならば、何時陸離たる光彩を放つやうになるか、當りが付きませぬ。私の希望することは、將來の美術は、皆な日本的といふ精神を失はないことです。油繪でも、表現の方法こそ西洋のものを藉りる許りで、精神に於いてはどこまでも日本的たるを失はないやうに成りたいものです。斯様に日本の美術と言ふものが確然と樹立されるやうに成るには、今日の如き遅々たる進歩、微弱な活動では、容易に望むことが出来ないのです。

従來とても直接に美術界の發達を經營される當路者、又は斯道の爲に盡力される人々が、此の發展の計畫を棄て、顧みなかつたとか、又何等の考案も立てなかつたとかいふ譯ではない、相當の力は注がれたのでありますが、其れが決して充分でない。今の美術界を譬へて見ますと、一方には新に蒔た種子があると同時に、他方には十分成長した古木がある。さて其の種子も今日では既に芽を出して來た。然らば之れを如何にして成長させるか、如何

にして立派な樹とするか、と言へば其の方法手段が定められて無い。他方の古木は如何であるかと言へば、既に充分に成長し、今や壽命も盡きむ許りで一つ強風でも吹いたならば、倒れさうに成つて居る。此の樹木を保護し其の壽命を延ばし、更に再び花咲くやうにする方法手段が定められて有るかと言へば、之れも亦無い。之れ等の方法は今日では更に定めて無い。如何に戦後經營の急を要するものが有り、美術の如きは、縁遠きものとは言ひながら、將來の事を考ふる上からは、是非とも文明國として恥ぢざる程の美術界を作らむことを思考して貰ひたいのです。

先づ第一に急務とすることは、美術上の行政とも稱すべきことです。言ひ換ふれば、政府が美術界を統治するやうにしたいのであります。美術將來の爲に、どうしても政府の力を借らねばならぬ、また借らざるを得ない事柄が有りますから、美術界全體を政府の下に統一して、健全なる發達をなす様にしたいのです。今日の日本畫の方は如何であるか。譬ふれば英雄の末路で頭腦は時勢に後れ身體は段々衰弱する許りのやうである。之れに反して洋畫界を見ると、恰も社會黨の如して、大に自由に活動して居るやうですが、其實はなかく不自由千萬で只徒らに勝手な眞似をして居るのです。斯様のことでは日本畫も洋畫も壽命が覺束ない、是れは是非政府の下に統一されて、安全に發達して行くやうな道を計らねばならぬと思ふのです。

政府の力で美術界を統一すると言ふことは、少しく變に聞えるかも知れませんが、要するに政府の力で充分に保護し亦干渉して貰ひたいと云ふのであります。元來美術は、衣食住のやうに人間の生活と直接の關係があるので、もないから何にもやきもきせずとも獨立に徐々と經營すれば宜しい様に思ふ人もあるでせうが今日の状態の如

く、朽ちるものは朽ちよ、延びる物は延びよといふ風に放任したならば、一國としての間接の不利益は非常なもので自然外國から全く壓倒されることに成りませう。現に佛獨などから持ち込む美術工藝品の多いのを見ても解ります。依て固より無制限無期限の政府干渉を主張するのでは無く、或る點又は或る時期までは是非共政府の力を借る必要が有ると思ひます。

佛蘭西は世界各國の中で最も美術に注意して居るところで、政府が直接に美術界に干渉するとは極めて多い、私設の會團にまで保護獎勵を與へて出来る丈進歩發達の方法を講じて居るのであるだから佛國の美術は益々盛だ。是から日本の政府でも少しく其眞似をするがよからう、充分に云へば眞似位では足りない今一層力を入れて大に干渉しなければいけません何故なれば今の佛國の美術界は、已に發達した樹木でありますから、此の上は只手落の無いやうに注意して行けば毎年立派な花實を獲られるのであるが日本の美術界は之れとは譯が違ふ。今迄むやみに蒔き散らした種子が漸く芽を出したのであるから、之れを無事に成長させるには、是非とも充分の保護を要するのです。樹が延びた時には時々必要に應じて手を入れる許りでも足るでせうが、漸く芽を出した木を、自然の儘に放任したならば、花や實を望むところでは無く、其の木の成長すら覺束ないのであります。又老木に就ても大に保護の必要が有ります故に今の干渉は束縛ではなく保護であります。さて然らば如何にして美術界を統一すべきでせうか。私の考では一種の學士會様の機關を設けて、美術界を監督したならば宜しからうと思はれます。先づ學校の設立、設備から教授法の事や、或は官設の展覽會を開設して、此の内に陳列された美術品に鑑査を下して等級を定めるとか、或は美術家獎勵の方法を講ずるとか、又は常設の

美術館を設けて、古今東西の藝術品を陳列して、後進の參考に供するやうのことを勵めたならば、美術界の進歩は速かなるのみならず安全だらうと思ひます。

今日の如く美術教育をたつた一つの美術學校に任せて置いて、低い程度の生徒を養成した所で、充分の發展を期するとは兎ても出来ぬ。展覽會でも數から見れば實に多いが、孰も小團體で微力のもの許りである。殊に商賣を目的とするやうの者もある。併しかく言へばとて、今日の展覽會を無用視するのではない、否今日までどうやらこゝうやら美術を維持して來つたのは、此れ等展覽會の力に依るので、其の點は感謝すべきであるが、今日のやうの有様では、新紀元を開いた帝國の美術をして、一大飛躍をなさしむることは望むべからずであります。實に今日は好機會でありますから、立派な官設の展覽會を設けて、長足の進歩をさせて見たいと思ふのです。

今迄美術々と申しましたが、決して狹義に用ゐたのでない、即ち純美術ばかりに就いて言つたものではありません。純美術の方面を見ますと、表面だけは其れ程に衰退して居らぬから、別に心配もないやうですが、實際は今日したやうに至て憫む可き次第でありまして、茲で少しく將來の爲に計るべきが急務です。此の事は美術工藝の方面を眺れば歴然として見えます。純美術を基礎として居る美術工藝は如何様の状態に在りますか。今日のまゝで西洋諸國と角逐することが出来ませうか。成程在來の工藝品で西洋人の賞美する所となつたものもある。併し其れが爲に自惚れて、我が工藝品は世界一であるかの如く思ふのは、非常の誤であります。筒様な考で進んだならば、今日の名譽も全く過去の夢となつて、我が工藝品は外人の話柄にすら上らぬ様になるであらうと思はれます。此邊の事は千九百年の萬國博覽會の出品でよく解ります。だと云つて——だめと諦めてしまつても誤である。セー

ブルの様な焼物は到底日本では出来ぬと諦めてはならぬ。話に聞いてすら懼るべき露國と戰つて勝つた我が國民が、美術上の敵と戰ふことが出来ぬといふ苦がない。政府の力を藉り、必要の準備を調べたならば、世界の美術競争場裡に旗幟を樹てることが必ず出来るであらうと思ふ。日本人が持つて居る勇猛精進の氣は、單に競争の上ばかりでなく、戦争の一たる美術又は工藝の競技上にも示して貰ひたいのであります。

美術界の病弊は恰も糖尿病の如きものです。初期に療治すれば直に病毒を除くことが出来るのですが、其の病のあることが容易に氣付かぬ。さて既に衰弱の様子が人目にもつき、自分にも氣分が悪い、苦しいと言ふ様になれば、病は既に餘程重い方であるが併しまだ治療が届かないではない。美術界の病氣も斯様の性質であります。氣付く様になつたのだから既に遅い位ではあるが早く今の内に服藥するがよい。さうしなければ老樹は片端から倒れ朽ち、嫩芽は凋んで、美術界は全く荒涼たる景と變ずるであります。

元來工藝品などは、日常入用の品であるから、もう少し世人が注意してくれねばなりません。今日の所では、外人が褒める品物など許に注意して、日常吾等の必要とする品物の如きは度外視されて有るやうです。従つて僅小ながら進歩する物は、外人の好む物で、日本人の注意せぬ物です。斯様の有様では、自國に根柢を有して居る工藝品の發達を望むことは出来ぬ。此の有様は從來の財政上の關係が有つたからでもありませんが、今後は此の財政も、大に趣を異にして來るでありませうから、今日から大に奮勵して、日本人の嗜好に適し、日本に根柢を有し、而も西洋人の賞賛するやうの工藝品を製作したいものです。それには矢張り政府の力を借りたいのです。佛國の政府がセーブルに與ふる助力の如きは最も我が國には必要であると思ひます。

兎に角美術工藝界のためには、今一層の奮勵を以つて其の發達を計畫しなければなりません。其の爲には、前に述べた學士會のやうな一つの保護獎勵の機關がほしいのです。斯様の機關が出来て、美術界全體を統一し監督し、展覽會の開設、美術家の養成、美術館の設置、工藝品の獎勵等に盡力するやうに有りたいものです。其設置には今日は實に申分のない好い機會でありますから、是非其の實行を計つて貰ひたいのです。

『太陽』二十九明治三九年六月